

ようご



発行 岩手県学校保健会
養護教諭部会
編集 広報部
平成28年9月28日
<http://www2.iwate-ed.jp/yougo/>



あいさつ

会長 谷村 純子

このたびの台風10号により被害をうけられた皆様に心からお見舞い申し上げます。児童生徒のケアもさることながら、被災されました会員の皆様もくれぐれも無理などなさらないようご自愛ください。

さて、会員の皆様には日頃より本部会運営に御協力いただきありがとうございます。去る5月30日の定期代議員総会において28年度の活動を承認いただき今年度もスタートいたしました。今年度は私たち養護教諭を取り巻く環境も大きく変化し、特に学校保健安全法施行規則一部改正等にもとない「四肢の状態」が必須項目に追加されたことにより、学校医及び教育委員会との実施方法の検討、保健調査・保護者通知等の準備、学校教職員への周知徹底等、試行錯誤しながらの実施になったかと思えます。今後、課題等を検証し児童生徒にとって有効な健康診断となるよう情報交

換しながら進めていきたいと考えております。11月25日には第40回岩手県養護教諭研究大会が開催されます。午前の講演では愛知教育大学学長後藤ひとみ先生をお招きし「養護教諭の未来を見据えるー教育改革の中で問われる専門性と機能ー」と題して御講演をいただきます。後藤ひとみ先生には平成15年度と平成21年度にも御講演をいただきましたが、第40回という節目をむかえた今回も養護教諭の職を経て学長になられたお立場から広い視野でたくさんの御示唆をいただけるものと思います。午後には3班に分かれての研究協議となります。是非多くの会員の皆様の参加をお願いいたします。

さて、東日本大震災復興なかばの折、熊本地震が発生しました。本県からは教育センター研修指導主事の平澤恒子先生が益城中学校に派遣され、本部会からも「東日本大震災にかかわる養護教諭の実践報告集」を送らせていただきました。被災された方々の思いを共有しながら私たちも目の前の子どもたちとしっかり向き合い養護教諭としての役割を果たすことが、いま私たちにとできることだと考えております。今後とも会員の皆様には引き続き御協力と御支援をお願いいたします。

《東日本大震災支援対策委員会より》

岩手県学校保健会養護教諭部会

東日本大震災支援対策委員長

石橋 寿子

会員の皆様には、本委員会の運営に御協力いただき感謝申し上げます。

さて、本委員会では、会員の皆様から『会員の声』を募る活動を行い、学校の状況・子どもたちの状況・保健室の様子等について会員の皆様にお伺いしております。

昨年度、いただいた『会員の声』は、沿岸地区からは次第に落ち着いた生活を送るようになってきているが、子どもたちに不安や体の不調が現れることを心配しており、寄り添い支えていきたいという声をいただきました。内陸地区からは、沿岸から内陸へ転入した子どもを見守っていること、保健便りや掲示物で震災を忘れないよう伝えていることを教えていただきました。

今年度も、いただいた情報をもとに活動を進めて参りたいと考えております。また、沿岸地区で開催する研修会は、3年目の取組みとなりました。地域の実情に合った内容の研修会を実施し、校種にとらわれずに

交流できる場となるよう計画しております。

平成25年2月岩手県学校保健会養護教諭部会より発行された「2011.3.11明日へ つなぐ ときいのち ころころ～東日本大震災にかかわる養護教諭の実践報告集～」では、日頃から備えておきたい物品等が具体的に紹介されております。各学校に配付されておりますので、資料編として報告集に添付しているCD-Rも併せ、改めて御覧ください。各地域・各学校の状況に応じた災害への備えをするため、積極的な活用をしていただきたいと思います。

本委員会は発足して6年目となりました。今後とも、本委員会の活動に御理解をいただき、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

－ 研修会の様子 －



定期代議員総会

5月30日(月)いわて県民情報交流センターに於いて定期代議員総会が開催されました。

冒頭の谷村会長の挨拶では、4月に発生した熊本地震へのお見舞いの言葉が述べられ、岩手県養護教諭部会として「報告集」を送らせていただいたことと、岩手県総合教育センターの平澤恒子先生が全国知事会要請のもと、益城中学校へ派遣されたことが紹介されました。(熊本派遣の詳細につきましては部会HPに掲載予定ですので、ぜひご覧ください。)

スポーツ健康課総括課長の八木浩之様より「東日本大震災から5年の月日が経ちましたが、沿岸被災地では復興とともに元気に学校生活を送る児童生徒がいる一方で、長期化する仮設住宅での生活等、様々な困難を抱えている子どもたちが未だに多く、このような児童生徒の心のケア等のために、養護教諭の先生方が献身的な対応をされていることを心から感謝を申し上げます。また日頃から児童生徒の心身の健康の保持増進ならびに学校保健活動の充実のために力を尽くしてい

ただいていることに心から感謝を申し上げます。」と書面にて御祝辞をいただきました。

議事は議長の上百合子先生(県立常任代理)と藤原由起子先生(盛岡常任代理)により進められました。特に総会資料の25ページ「5協議(7)会員登録と会費の納入について」は、近年臨時採用者・再任用者の単独配置が行われていることから、会員不在の学校が出ないようにすること、本会の円滑な事業推進のためにも、来年度より再任用者は継続して会員登録し、臨時採用者についても単独で配置された場合は会員登録することを原則とすることが承認されました。そのほか「県・市・私立学校における役員選出地域拡大について」検討を進めることが報告されています。協議事項の詳細については、総会資料をご覧ください。
— H27年度で退任の役員 — (事務局員 米田 智世)



演題「スクールソーシャルワーカーの役割と実際」

盛岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー

社会福祉士 砂田麻子氏

1. SSW (スクールソーシャルワーカー) とは

教育と社会福祉に関する専門的な知識や技術を有し、いじめ・不登校・暴力行為・児童虐待など問題を抱えた児童生徒に対し、児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関との連携、学校内のチーム体制の構築など問題解決への対応を図っていく福祉の専門家である。教育委員会等に配置され、保護者や教職員への支援、福祉制度の情報提供も行っている。

2. スクールソーシャルワークの視点

- 1) 児童生徒の権利を最優先…その子のために何が最もよいことか、何が一番困っていることかという視点を大事にする。
- 2) 児童生徒の自己決定の尊重
- 3) エコロジカルな(生態学的)視点…子どもを取り巻く環境と相互作用・影響に焦点をあて、問題解決のために環境に働きかける。
- 4) ストレンクス視点…本来持っている資源や力に焦点をあて、その力をさらに強める働きかけを行う。
- 5) 学校教育制度の理解

3. 学校体制の中でのSSWの役割

- 1) 学校に福祉の視点を導入する。(子どもはどんな問題を抱え、その背景にあるものは何かをみていく。)
- 2) 問題を整理し、社会資源や校内チーム体制をつくる。
- 3) ソーシャルワークのプロセスを定着させる。
問題発覚→インテーク(相談受理)→アセスメント(見立て)→プランニング(支援の計画)→プラン

の実行→モニタリング(検証と見直し)

- 4) 学校内で教職員が役割を分担して機能できるよう働きかける。
 - 5) 学校や福祉機関の代弁・通訳を行う。
- #### 4. 子どもたちの抱える問題

H27岩手県の相談件数は370件(不登校140件、家庭環境112件)。発達の問題を抱えた子どもが非常に多く、環境の変化に合わせることが苦手な子どもは、周りの環境(友達・先生)の変化で不具合が生じやすい。

中学生の事例では、母親と信頼関係を築き、検査結果から本人が自分の特性を知り、また、周りの理解や支援により、学校に戻ることができたケースがある。

虐待などは学校が行った対応と家庭の問題として見えてくることを記録し、児童相談所と連携を図る。多様化した問題に取り組むには、いろいろな方向からアプローチできるチーム力をつけることが必要である。

養護教諭の先生方は、いつでも誰でも、個別に、受容的・共感的に対応していただける有難い存在である。子どもたちの安心・安全を最優先し関わっていただきたい。



平成28年度 全国養護教諭研究大会に参加して

山田町立山田北小学校

平成28年8月4日(木)・5日(金) 富山県富山市

長内 美貴

今回で最後となる研究大会に参加することができ、大変有意義な2日間を過ごすことができました。

1. 記念講演「今、豊かに生きぬく力を育むために」

鳴門教育大学特任教授 森田 洋司

児童生徒の抱える課題について組織的な対応で取り組む必要があること、また組織を機能させるためには協働性のほかに、同僚性が必要であると学びました。

2. 基調講演「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割—子供の現代的な健康課題の解決に向けて—」

文部科学省健康教育調査官 岩崎 信子

これからの養護教諭の役割として心理や福祉の専門スタッフと協働し、「チームとしての学校」の総合力、教育力を最大化できるような体制を構築していくことが大切になると話されました。

3. シンポジウム「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割—子供の現代的な健康課題の解決に向けて—」

養護教諭・校長・学校医・行政の4つの立場からのシンポジウムでした。チームとしての養護教諭の役割として「子どもを中心に考える原点を大事にしながら、先生方の思いをつなぐことが大切」というお話がなされました。

4. 課題別研究協議会 第4課題 保健教育

3人の先生方からの保健教育の実践報告がありました。生徒保健委員会の活動や地域との連携を密に図った実践の報告でした。また、健康教育の最終目標はQOLの向上であるとの言葉が強く印象に残りました。

今後はチームとしての養護教諭の役割を意識しながら職務にあたっていきたいと思います。



第49回 東北学校保健大会に参加して

平成28年8月9日(火)・10日(水) 山形県山形市

遠野市立遠野北小学校

玉山 祥子

【1】実践発表

◇朝日を浴びてスイッチオン!

早寝・早起き・野菜つき朝ごはん!

鶴岡市立朝陽第二小学校養護教諭 村井 有

◇生涯を通じて健やかに生きるため基礎を培うために

山形県立山辺高等学校教諭 武田美代子

児童健康委員会の活動を核とした生活リズム確立の朝陽第二小学校の取組みと、調理師・介護士・看護師の資格取得を目指す高校生が地域と連携して事業を進めることで、生徒の地域に関する関心が高まり、様々な年代の方とコミュニケーションをとれるようになった山辺高等学校の実践発表でした。

【2】記念講演

「健康診断の改正から見える子どもの健康課題」

東京大学名誉教授 衛藤 隆氏

日本学校保健会 健康診断調査研究小委員会の委員長でもある衛藤先生から、運動器検診が導入された経緯・望ましい実施方法・事後措置についてお話がありました。その中で「検診の実施にあたっては担任、保健体育教諭、養護教諭、学校医等に対して整形外科医等の専門的な立場から、研修等によって助言を得る機会を積極的に設けることが重要である」とのお話に深く共鳴しました。

【3】分科会・グループ協議(歯・口の健康づくり)

◇歯と口の健康教育の学びを通して主体的に活動する生徒の育成

仙台市立住吉台中学校養護教諭 後藤多喜子

自分たちの口腔衛生だけでなく、地域社会とも関わりを持たせて地域の健康増進のために自分たちができることを実践していました。学校歯科医だけでなく、歯学部とも連携を取って生徒が学びを深めていました。

◇自分の「健口」は自分で守る子どもを育む歯科指導

米沢市立六郷小学校養護教諭 山口 直美

学校歯科医と綿密に連携し何度も学校に赴いていただいて児童へのスパイラルな保健指導を継続、また、個別の歯科指導の記録(写真)を蓄積し、児童が自分の目で変容を確認することで次への意欲につながった学習の成果が発表されました。その後、「歯・口の健康づくりを校内全体で組織的に進めていくための手立てや工夫について」グループで協議しました。

助言の先生から、近年嘸めない子どもが増えてきている。全国的に子どものう歯は減少しているが個人差が広がっている。おやつとの与え方や仕上げ磨きの方法が分からない親が増えてきていること等のお話がありました。また、交換期の指導が重要で、永久歯をむし歯にしない方法を真剣に考える必要があるとのことでした。

全国養護教諭 連絡協議会

平成28年度 総会及び第18回学校保健連絡協議会

6月18日(土)、東京都ヒューリックホールにおいて、全国養護教諭連絡協議会の総会並びに「第18回学校保健連絡協議会」が開催されました。

午前の連絡協議会では「成長曲線に基づく児童生徒の健康管理・指導支援について」と題し、東京女子医科大学名誉教授村田光範氏の御講演があり、身長・体重成長曲線が児童生徒の健康管理に非常に重要であると話されました。午後には総会と各ブロック別協議会が行われ、文部科学省初等中等教育局健康調査官岩崎信子氏から、健康診断に関する御講演をいただきました。各都道府県から出された健康診断意見集約に目を

通され、課題について十分に御理解いただいた上で、養護教諭一人で抱え込まず、教育委員会・医師会・管理職と連携し、子どもたちの健やかな成長のための健康診断となるよう、すすめてほしい旨話されました。

また木嶋晴代会長から、従来の基本方針の継続（HPをご覧ください）と、養護教諭の養成・採用・研修等に関する施策の提案と実現に向けた取り組みを行う目的で、6団体が発起団体となり【養護教諭関係団体連絡会】が設立され、その中に全国養護教諭連絡協議会も加わったとの報告がありました。

(会長 谷村 純子)

第51回 東北地区養護教諭連絡協議会

8月9日(火)山形テルサにおいて、「第51回東北地区養護教諭連絡協議会」が東北学校保健大会に併せて開催されました。本会は、東北6県と仙台市の養護教諭研究団体で組織され、各県の活動状況や情報を交換しながら諸問題を協議する会です。

初めに昨年度の会務及び決算、また本年度の会務及び予算の提案があり承認され、各県の現状や課題の報告がありました。その後、どの県の課題でもある、急激な世代交代への取組みやHPの開設について情報交換されました。谷村会長から、指導養護教諭並びに「岩手ようごの会」や、震災直後に開設したHPについて

説明したところ、他県から参考にしたいと質問が多数ありました。私達の先輩が執務をするうえで困ったときに、相談や研修ができるよう立ち上げてくださった「岩手ようごの会」や、他県では予算や引き受け手がないなどの現状から、HPを開設するのにも、何年もかかっている現状を聞き、HPの開設から5年間、担当していただいている盛岡となん支援学校瀬川貴子先生に、改めて感謝した次第です。そのほか秋田県の学校現場でのフッ化物洗口実施の拡大等について情報交換されました。次年度は秋田県での開催となります。

(副会長 細川喜美子)

平成28年度の新規採用者29名を紹介いたします

(敬称略)

○小学校	菊池知佳子	遠野市立達曾部小学校	○中学校	岩井 友美	宮古市立田老第一中学校
	山田 ゆり	奥州市立真城小学校		吉川 未菜	宮古市立川井中学校
	鈴木 御雪	陸前高田市立横田小学校		吉澤江理子	久慈市立久慈中学校
	三浦 萌	陸前高田市立竹駒小学校		若杉日香里	久慈市立大川目中学校
	細川 志穂	釜石市立鶴住居小学校		細川紗貴子	久慈市立山形中学校
	畠山 柚	大槌町立吉里吉里小学校		馬場美沙紀	二戸市立福岡中学校
	田中 泰代	宮古市立重茂小学校	○高等学校	斉藤 唯子	江南義塾盛岡高等学校
	滝村真悠子	宮古市立田老第三小学校		久多良知花	岩手県立前沢高等学校
	山崎 初美	岩泉町立二升石小学校		近藤 和佳	岩手県立一関第一高等学校
	槻木 夕香	岩泉町立小川小学校		晴山 莉恵	岩手県立大東高等学校
	小森 瞳	洋野町立宿戸小学校	○支援学校	宮澤 華恵	岩手県立大野高等学校
	飯田 佳穂	普代村立普代小学校		藤平 世渚	岩手県立気仙光陵支援学校
	小嶋 瞳	二戸市立仁左平小学校		佐藤 香菜	岩手県立釜石祥雲支援学校
	高瀬 萌	九戸村立長興寺小学校			
	梅津 美里	九戸村立江刺家小学校			
	三枝 千里	一戸町立鳥海小学校			

